

## お茶大での交換留学

大連外国語大学

レンミイ



桜の季節に日本に来て、交換留学生としてお茶の水女子大学で勉強や生活した四か月はあっという間に過ぎました。様々な体験ができたりいろいろな人に出会ったり、良い思い出が数え切れないほどある四か月でした。

この学期が始まるまえに、どのような授業を取るか少し迷っていましたが、その時萩原先生は交換留学生と個人面談を行い、みんなにふさわしいアドバイスをくれました。萩原先生のおかげで、自分に合う授業を選ぶことができました。参加可能な授業には、「日本語・日本事情演習」や「日本語特設クラス」など留学生向けの授業もあれば、担当先生の許可があれば正規学生向けの専門授業もあります。

留学生向けの授業について、萩原先生の「日本語演習VA」に参加しました。最初は正しい言葉使いから勉強し、パーフェクトな発表にいたるまで必要なノウハウを身につけるような授業です。最後の発表のために、みんな意欲満々頑張った姿が一番印象深いです。萩原先生のおかげで、ふだん発表の時に自分にも気づかなかったあまりよくないことを認識しました。今後もし発表が必要だったら、この授業で学んだことをかならず生かそうと思います。

正規学生向けの授業について、指導教官宮澤仁先生が開講した「都市・福祉地理学演習I」に参加した。宮澤先生が選んだ13本論文のなかに、自分が気になる論文を一つ選んでレジュメを作成した後で発表し、担当学生以外のクラスメートはグループごとに論文にかかわる事情や現象について議論する授業です。最初議論の時に、自分の日本語にあまり自信がないから、クラスメートの意見を聞きながらうなづく程度しかできなかつたです。宮澤先生は「ほかの留学生よりレンさんの日本語は上手ですよ。自分に自信を持った方がいいですよ」とやさしく肯定してくれました。先生の言葉はいつも私を励ましますので、議論に積極的に発言しようという気持ちが出てきました。一歩も踏み出さないと何もできないとよく勉強しました。

授業以外、自分の日本語をよくするために、西坂先生が主導するOcha Tandemに参加しました。Ocha Tandemとは、お茶大に在籍し、母語が違う2名が互いの

言語や文化を教えあうものです。パートナーの曾根有利さんは日本の部活文化、行事イベントなどいろいろ教えてくれました。いま流行っている面白い日本語も勉強しました。自分も中国文化や中国の美味しい食べ物を紹介しました。Ocha Tandemに参加し、友達もできてよかったです。

自分の卒業論文のテーマは高齢者に関する事情ですので、指導教官宮澤先生が紹介してくれた多摩ニュータウンのNPO団体「福祉亭」を訪問しました。多くの高齢者がボランティアとして福祉亭で活動しています。地域高齢者の居場所としてとても有名です。私もボランティアとしてみんなと一緒に福祉亭で活動しました。高齢者というと、衰弱や行動不便というような印象が一般的ですが、福祉亭の高齢者たち皆はとても元気に活動しています。高齢社会の現在、どのようにポジティブシニアになるかは喫緊の課題だから、自分も引き続き高齢社会に役立つ情報を整理することに頑張っていこうと思います。



<https://fukushitei.org/>

最後に、お世話になった方々に感謝を伝えたいと思います。

全ての先生方に感謝します。特に授業で私の発言を励ましくしてくれた萩原先生と指導教官宮澤先生に、本当に感謝しています。よく情報共有してくれるチューターの田村莉子さんにも感謝しています。日本に来ていろんな方から様々ま助けをいただき感謝しています。みんなのおかげで、良い思い出をいっぱい作りました。